

第94回



岩手大会

第7日

ベスト16 出そろそろ

第94回全国高校野球選手権岩手大会第7日は14日、盛岡市の県営球場で3回戦1試合を行い、延長十五回を戦い、22年ぶりの引き分け再試合となった注目の一戦は、花北青雲が6-3で久慈を振り切った。これで3回戦すべてが終了し、ベスト16が出そろった。

【関連記事30面】

花北青雲は1-0の五回に一挙5点を奪う集中打で勝利をつかんだ。2死一、三塁から佐藤直人(3年)が三塁線を破る2点打を放ち、大矢明(3年)の中越え適時二塁打など計4連打で6-0と突き放した。

芝生の勝敗

▽3回戦
【県営】
花北青 6-3 久慈

ぎょうの試合

▽4回戦
【県営】
盛岡大付 1-0 野
一関学院 1-0 盛岡中央
伊保内 1-0 花巻東
【花巻】
不来方 1-0 東
大船渡 1-0 関工
大船渡 1-0 沢
大船渡東 1-0 沢
大船渡水 1-0 沢

き放した。

久慈は終盤に反撃。七、八回に1点ずつ返し、最終回も高際優吾(3年)の右越え適時二塁打で3-6と迫った。なお1死一、三塁の好機だったが、救援登板した相手エース大矢に後続を断られた。第8日の15日は県営球場、花巻球場、森山総合公園球場、金ヶ崎町の3会場で4回戦8試合を行い、ベスト8が決まる。

岩手大会22年ぶりの引き分け再試合

花北青雲 中盤に一気

久慈、執念の反撃届かず

◇県営球場▽3回戦

久慈	0	0	0	0	1	1	1	3
花北青雲	1	0	0	5	0	0	0	6

【久】 菊地一崎広 (花) 晴山、大矢一伊藤
【花北青雲】 北沢、菊地、高際 (久) 久保田、大矢、伊藤 (花) 久保田、大矢、伊藤 (花) 久保田、大矢、伊藤
【評】 花北青雲が中盤の集まり、久慈を下した。初回2死三塁に伊藤の中前打で先制すると、五回には久保田主将ら上位打線の4連打を含む計5安打を集め5点を追加。晴山、大矢の連続打で逃げ切った。久慈は終盤に粘りを見せ、中花の適時打などで3点を返したが届かなかった。13残塁と好機を生かせなかった。



久慈 花北青雲 5回裏花北青雲2死一、三塁、伊藤の右翼線適時二塁打で一走久保田が生還し、6-0とする。捕手崎広(県営)

連戦自信に好球必打

連戦の疲れよりも15回を戦い抜いた自信が花北青雲にあふれていた。2年生投手の力投に3年生上位打線が応え、現役名では初の16強入り。心の成長が選手を躍動させ、引き分け再試合での勝利を呼び込んだ。五回、気後れすることなく攻め抜いた。2死一、三塁で1-4番の4連打。いずれも甘い球を逃さない積極性が光った。沢田晴水監督は「これまでは好機でバットが振れなかった。本当にたくましくなった」とたたえ、3安打3打点の主砲伊藤大樹(3年)は「晴山を褒めさせたかった。前日に好機で打てなかった分も打った」と喜んだ。

2戦連続先発の晴山光(2年)は粘りの投球。「1点でも取られたら負け」と燃え、同じ2年生投手が相手だったため燃え、前日の反省から低めに集めて六回まで無失点に抑え、リズムをつくった。多くの選手が「自信になった」と振り返る久慈との熱戦。攻守でけん引した久保田圭一主将(3年)は「疲れはあったが、いい雰囲気だった。ピンチもチャンスも楽しめた」と充実の表情を見せた。計24回でつかんだ1勝は、選手を一回りも一回りも大きくさせた成長の証となった。

花北青雲 斎藤遼右翼手 (1死満塁のピンチに好捕) 守備でも攻める気持ちだった。得点されたくなかったため執念で走った。捕った時は無我夢中で、ボールを内野手に返してから我に返った気分だった。

【久慈】	打点	0	0	1	0	0	0	1	3
【花北青雲】	打点	2	1	0	3	0	0	0	6

【久慈】	打点	2	1	0	3	0	0	0	6
【花北青雲】	打点	2	1	0	3	0	0	0	6

久慈	5	6	1	0	1	1	3	0	13
花北	1	4	4	1	1	5	0	0	16

▽試合時間 2時間15分

真っ勝負 貫くも無念

11安打の久慈

久慈は惜しい野球を最後まで貫いた。スクイズではなく、打って勝つ。0-6の劣勢でも気落ちするどころか、選手は燃えた。終盤に3点差まで追い上げたが無念のゲームセット。君ヶ洞卓朗監督は「最後まで打線がかみ合わなかった。原因は...と宙をにらみ声を詰まらせた。2-6で迎えた最終回。遊撃内野安打2本で1死一、二塁と攻め、5番高際優吾(3年)が「前日に、自分が打つていれば再試合になっていた。借りを返したかった」と気迫の右越え二塁打で1点を加えた。あと3点、1死一、三塁の好機だったが反撃は続かず、3年連続のベスト16進出はならなかった。

だが、思ったほど球が走っておらず打ち損じが続いた。

久慈 菊地秀和投手 先に失点はできないと思ひ、力んで球が高く浮いてしまった。冷静さを忘れず、もっと低めを突きたかった。疲労は相手も同じ。言い訳はできない。

前日の「残像」が打線を狂わせ、相手は同じ先発投手で11安打を放つて力を見せた。

岩手日報 高校野球速報

携帯サイト「岩手日報モバイル」で全試合をリアルタイムで速報します。



花北青雲 写真左は、五回に一挙5点得点。応援も盛り上がり、誰よりも跳んで、叫んで死力を尽したマネージャーの佐々木夏生(3年)は「さのうからこの調子で喉は枯れてしまったけれど、3年間は初めての県営。2日連続で初めての県営。2日連続でここで戦えてうれしい」と充実感にひたっていた。久慈 写真右は午前7時

